

「Chairman,DentsuInc.」の肩書で電通インターナショナルHPに紹介されていた「Tadashi Ishii」さんが「行方不明」です。



92 頭隠して尻隠さず

「田中康夫緊急寄稿」がアップされた2月19日の午後でした。午前中一杯は「Who We Are Our Leadership」に顔写真入りで登場していたのに忽然と削除されてしまったのは？ 言わずもがな、女性社員の自裁を契機に労働基準法違反の嫌で法人の電通が東京地方検察庁へ書類送検された2016年12月28日、引責辞任を会見で表明した当時の「(株)電通」代表取締役社長石井直氏です。

拙い英語力では「Chairman」を「顧問」若しくは「相談役」とは邦訳出来ず、若しや前任の電通社長は海外事業会社「議長」職を授かったのかと訝りながら原稿「Network」所属と記載された「謎」にも言及しました。

何故って、世界8位の広告代理店だった英国のイギリス・グループを2013年3月26日に約4千億円で購入し、電通イギリス・ネットワークへと社名変更した。東洋の眠れる巨人は、僅か6年半で145ヶ国・地域に6万6千名の従業員を擁する900社もの無国籍企業へと変貌し、昨年1月1日に純粋持株会社体制下で

発足した(株)電通グループは9月25日、電通イギリス・ネットワークを電通インターナショナルへと商号変更していたのですから。

慌てて再確認すると、石井前社長と共に4名の写真と肩書も忽然と消え去っていました。彼らは今、何処で如何なる職務に携わっているのでしょうか？ 願わくは朝鮮民主主義人民共和国で散見される惨事とは異なる人生を健やかに過ごされん事を。

他方、Ashish Bhasin氏は2月22日時点で電通イギリス・ネットワーク・インディアを差配中。「Under his leadership, Dentsu Aegis Network India is now the second largest Advertising & Media Group in India by revenue」。更にGlobal CEO, CreativeのJean Lin 女史が所掌する中国ではケンタッキーフライドチキンを担当する「Dentsu Aegis Network iKFC Digital Transformation」のHPが元気に稼働中。

「困難かつ不確実な社会で電通グループが果たすべき使命」「価値創造モデルをさらに進化させていきます」と山本敏博代表取締役社長執行役員が「マネジメントメッ

セージ」を述べる(株)電通グループは、五輪「延期」やコロナ禍を想像だにしなかった2019年12月期連結決算(国際会計基準)最終損益の赤字額808億円に続き、今年2月15日発表の2020年12月期連結決算は1595億円と過去最大の最終赤字に沈んでいます。而して巨額の減損損失を計上後も猶、「買収された企業の純資産」と「買収価額」の差額「のれん代」は5900億円も残っているのです。

「電通」化する日本巨大広告代理店はなぜ迷走したか」と題し昨年7月「サンデー毎日」に寄稿直後、求められて彼と2人で面談の際、メモ書きを手渡し、忌憚なき提言を行いました。①総務省・厚労省の「殖民地化」阻止。②「電通」労働環境改善のプロトタイプ化。③海外事業の可視化。④邦文HPでガバナンスを明確化。

が、その何れも「可視化」されていません。白物家電や自動車のモノと異なり、表現というココロを扱うが故に国際市場で迷走する巨大広告代理店への「最後の諫言」は <https://tanakayasu.me/dentsu/> で全てご覧頂けます。

田中康夫の

新ニッポン論

SNSを通じて読者から緊急連絡を受けたのは、「ダイヤモンド・オンライン」に「電通」はなぜ迷走し続けるのか？ 畏友・

山本敏博CEOへの最後の諫

★次号4月号の発行口はのり口です。